

帝王切開時の予防的抗菌剤投与に対する network meta-analysis

近年世界中で帝王切開による分娩の割合が増加傾向にある。WHO の調査によると 2004-08 年の帝王切開率は、HDI(Human Development Index: 人間開発指数)の高い国では 34.4%、中程度の国では 28.4%、低い国では 14.4%であり、日本では 19.8%であった。

帝王切開は母子の命を守るのに効果的であるが、WHO は帝王切開の割合を 10%から 15%が理想的としている。15%を超えると母親、新生児、胎児の死亡率は横ばいになること、帝王切開における感染症のリスクは経膈分娩におけるリスクの 5 倍以上とされていることなどから、不必要な帝王切開は避けるべきである。しかし、医療上の理由等で帝王切開が必要となった場合、抗菌剤を予防的に投与することで、感染症の多くを防ぐことができる。その際、予防的に投与する抗菌剤の種類や容量は多岐にわたるが、伝統的なメタアナリシスでは個々の研究において取り上げられた抗菌剤間での直接比較しかできない。そこで抗菌剤どうしが直接比較された研究だけでなく、それらの研究から間接的にも予防効果を考慮した network meta-analysis を行い、どの抗菌剤が感染症の予防効果が高いのかについて明らかにすることを、卒業論文の目的とする。その際、Gyte らによる Cochrane Review で対象となった研究を解析対象とした。

本抄読会では maternal endometritis についての network meta-analysis の解析結果を提示する。

主要論文

1. Joshua P Vogel, Ana Pilar Betrán, Nadia Vindevoghel, et al. Use of the Robson classification to assess caesarean section trends in 21 countries: a secondary analysis of two WHO multicountry surveys. *Lancet Glob Health* 2015; 3: e260–70.
2. WHO, HRP. WHO statement on caesarean section rates. Executive summary. April 2015;WHO/RHR/15.02.
3. Gyte GML, Dou L, Vazquez JC. Different classes of antibiotics given to women routinely for preventing infection at caesarean section. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2014, Issue 11. Art. No.: CD008726. DOI: 10.1002/14651858.CD008726.pub2.